

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課	課長名	記入者
		学校教育	松本寿朗	近藤文好
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
学校間の交流授業の充実		新規	年度	年度
事務事業の体系		継続	H19以前	未定
計画掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつむ、あったかいまち	(節) 1 のびのび育とう、育てよう	
	個別計画 特色づくり	(基本計画) 学校教育の充実		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分 (該当する区分に「○」)		
教育公務員特例法19条20条		○ ソフト事業	施設の維持管理	
地方公務員法39条		義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		建設・整備事業	計画などの策定	
交流・連携を基本におき、幼稚園間小学校間幼小間の交流授業を推進する。		補助金の支給	有○無	
		委託	全部委託	一部委託
		○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
多可町内全教職員	園児児童生徒	交流授業・出前授業をより活発に行い、児童生徒の見えない学力の向上を図る。

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>		会計名	一般	会計
細目名	普通旅費	細目名	負担金	
予算コード	款 項 目 節	予算コード	款 項 目 節	

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	19年度 決算	20年度 見込	21年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト						予算措置なし
コストの内訳	直接事業費	千円				
	所属内間接費					
	投入人員	人/年	0.05	0.05	0.05	
財源内訳	国・県支出金	千円				
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源					

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1	交流授業の実施	積極的に異校種の授業を参観し、その中で授業方法等を学び、教職員の資質向上を図る。	研修会の開催回数	回	3	3	3
2	異校種学級の授業参観		1人あたりの授業参観回数	回	0	0	1
3							
4							
5							

(ソフト事業)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [学校間の交流授業の充実]			
成果指標(意図の数値化)	単位	19年度実績	20年度実績	21 年度目標	備考 (成果指標の考え方・計算方法)
交流授業の実施	回	3	5	5	実施回数
異校種の授業の参観	回	0	0	1	

7 事務事業の事後評価 <Check>				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	☐ 高い	☐ 高くない	☐	把握なし			
		緊急性は	☐ 高い	☐ 高くない	☒				
		利用者・対象者数は	☐ 増加	☐ 減少	☐	横ばい			
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐	把握なし			
	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	☐ ない	☐ ある	☐				
国や県の事業(サービス)との重複は		☐ ない	☐ ある	☐					
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	☐ ない	☐ ある	☐				
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐	把握なし			
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	☐ ない	☐ ある	☐				
		他の事業と統合できる可能性は	☐ ない	☐ ある	☐	あるが困難			
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	☐ ない	☐ ある	☐	あるが困難			
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐				
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	☐ ない	☐ ある	☐				
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	☐ ない	☐ ある	☐				
		受益者負担を見直す余地は	☐ ない	☐ ある	☐				
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	☐ ある	☐ ない	☐				
		前年より成果が上がって	☐ いる	☐ いない	☐	横ばい			
	持続の 可能性	継続することによる効果は	☐ 高い	☐ 高くない	☐				
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	☐ いる	☐ いない	☐	測定困難			
		事業の休・廃止による住民への影響は	☐ 大きい	☐ 大きくない	☐				
市場化の 可能性		既に全部委託済	更なる委託化が可能である		委託化の余地があり		☐ 委託化は不可能		
		市場化テストの導入について検討する余地がある		市場化テストの導入を検討する余地はない					
改善の可能性			1.改善の余地はない		☐	2.改善の余地がややある			
			3.改善の余地が多い		☐	4.抜本的な見直しが必要			

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action>					
職場からの意見			今後の具体的な取り組み		
(施策を取り巻く環境) 学校規模が小さくなり、単学級で6年間を通す状況もあり、多くの人との交流を通して人間関係づくり、仲間づくりを学ぶ機会が必要となっている。			(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 各小学校で独自に進めている「特色ある学校づくり」の成果を交流・連携に活かす。他校の良さをお互いに学んでいくことが大切である。		
(課題の解決についての提案など) 幼・小・中ネットワーク連絡会等を通して、さらなる交流連携を進めていきたい。			自己評価 4 (目標以上に達成されている)		
今後の方向性	○	1. 重点的に継続	2. 現状のまま継続	3. 内容を見直しながら継続	4. 縮小を検討
		5. 統合・連携を検討	6. 休止・廃止を検討	7. 終了・完了	